

別添 3

首都高速道路の決算（平成16年度）

1. 営業中の高速道路（283.3km）の収支状況

（1）収益

平成16年度の道路料金収入（2,615億円）を含めた道路部門の収入は2,636億円で、平成15年度と比較して25億円（1%）の減収となっています。

（2）費用

管理費のコスト縮減に努めた結果、平成16年度は、道路部門の管理費用は598億円（道路管理費525億円、一般管理費73億円）となり、平成15年度の694億円と比較して97億円の減となりました。また、支払利息等（業務外費用）は金利の低下による影響などにより773億円となり、平成15年度の852億円と比較して79億円の減となりました。

この結果、費用は、平成15年度と比較して176億円（11%）減の1,371億円となっています。

（3）償還準備金繰入

収益から費用を差引いた収支差である償還準備金繰入は1,265億円となっており、営業中の高速道路の建設、改良に要した借入金等の返済に充てられます。

（参考）

償還準備金繰入額の推移

（単位：億円）

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
償還準備金繰入	901	1,115	1,265

（4）収支率

平成16年度の収支率は52.0%となっており、前年度に比較して6.1ポイント向上しております。

（参考）

収支率の推移

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
収 支 率	65.6%	58.1%	52.0%

（注）収支率（%）＝（管理費＋支払利息等）／収益 × 100

なお、上記の収益と費用の金額は、財務諸表（損益計算書）の金額から駐車場事業等の金額を除いた高速道路事業のみの金額となっています（次頁も同様）。

資料 営業中の高速道路の収支状況

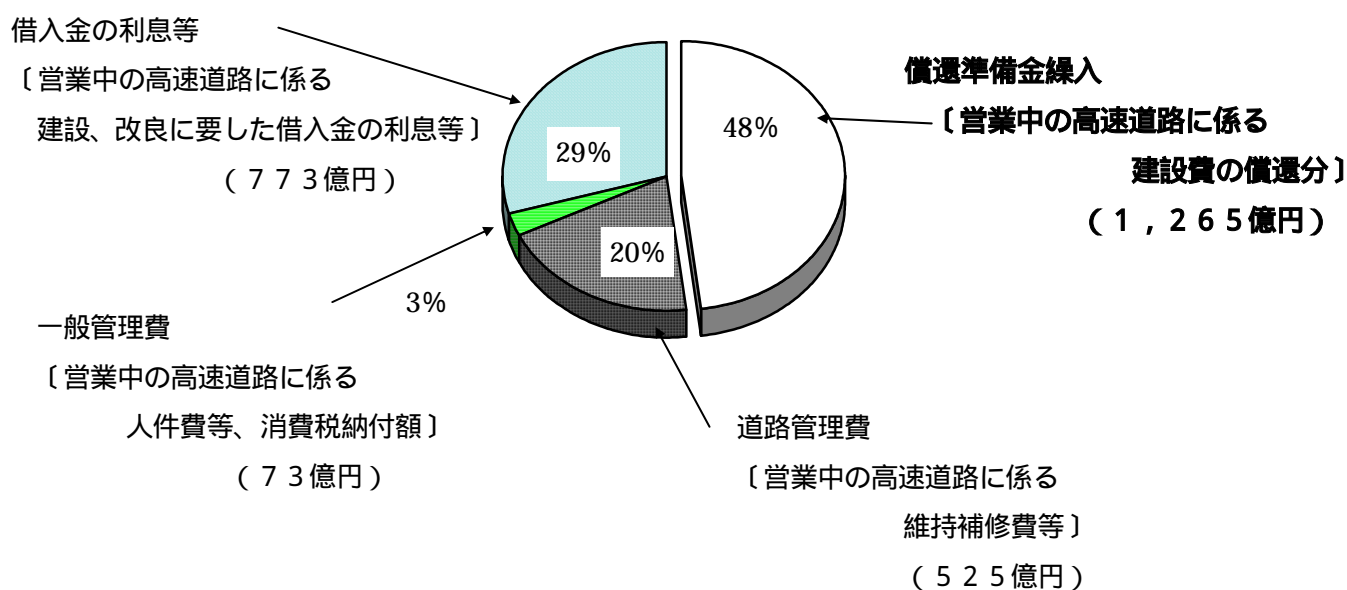
(単位：億円、%)

収 益 (A)	費 用 (B)				償還準備金繰入 (A - B)	収支率 (B / A) × 100
	道路管理費	一般管理費	借入金利息等	計		
2,636 (2,661)	525 (578)	73 (116)	773 (852)	1,371 (1,546)	1,265 (1,115)	52.0 (58.1)

() 内は平成15年度の金額

- ・「収益」には、道路料金収入(2,615億円)、道路占用料等(21億円)を計上しています。
- ・「道路管理費」には、営業中の高速道路の維持補修、料金収受などに要した費用を計上しています。
- ・「一般管理費」には、営業中の高速道路に携わる職員の人件費、消費税納付(還付)額などを計上しています。
- ・「借入金利息等」には、営業中の高速道路の建設、改良に要した借入金等の利息(道路債券利息、借入金利息)等を計上しています。なお、国及び地方公共団体からの出資金により、借入金利息が軽減しており、出資金はコスト軽減に役立っています。(参考 国などからの出資金は平成16年度376億円、平成15年度388億円。)
- ・「償還準備金繰入」は、営業中の高速道路から生ずる毎期の収支差を営業中の高速道路の建設、改良に要した借入金の返済に充てるものです。
- ・「収支率」は、100円の収入を得るためにどれくらいの費用が必要であったかということを示しています。
- ・なお、財務諸表の計数は、高速道路事業と駐車場事業等の合計値となっています。

収益(2,636億円)と費用の対比



2. 平成16年度末の償還準備金の積立状況

営業中の高速道路の資産額6兆307億円に対し、償還準備金は平成16年度末で1兆7,508億円を積立えています。償還準備金は、前年度から1,265億円積み立てており、確実に償還が進んでいます。

営業中の高速道路の償還状況

(単位：億円)

	営業中道路の資産総額 (C)	償 還 準 備 金 (D)	要償還額 (C - D)
16年度 (15年度)	60,307 (58,273)	17,508 (16,242)	42,799 (42,030)

- ・「営業中道路の資産総額」とは、営業中の高速道路の建設、改良に要した道路資産全体額から償還を要しない額（資産見返交付金）を除いたものです。

(平成16年度では、道路資産6兆907億円から資産見返交付金601億円を除いたもの)

- ・「償還準備金」とは、平成16年度までの償還準備金繰入の累計額です。
- ・「要償還額」とは、今後、道路事業の収支差（収益と費用の差）によって、返済していくこととなる金額です。

(参考)この他に、工事中の高速道路(平成16年度末現在29.8km)の資産額(道路建設仮勘定)が1兆4,914億円あります。

営業中の高速道路の資産額(6兆307億円)の内訳

